

KSE⇒秋田大学学生宇宙プロジェクトインタビュー

- ・ インタビューを行った日：12月23日
- ・ インタビューを行った人：峰松拓毅（Kansai Space Explorers B4）
- ・ インタビューされた人：熊谷圭太（秋田大 B2）

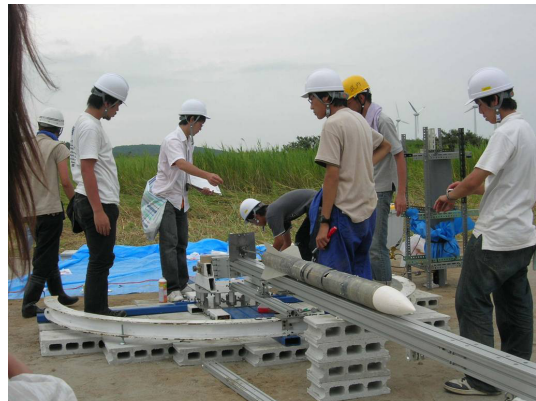
今回は、秋田大学学生宇宙プロジェクトのインタビューを行いました。

秋田大学学生宇宙プロジェクトは、ハイブリッドロケット及び CanSat の製作及び打ち上げを行っている学生団体です。

インタビューに答えてくれたのは、学生代表を行っている学部2年の熊谷さんです。

——秋田大学学生宇宙プロジェクトはどのような活動を行っているのですか？

学生が主体となって、宇宙に関わる技術の研究を行っています。具体的には、カンサットの製作やハイブリッドロケットの打ち上げ、また小中学生向けのモデルロケット教室など開催してきました。



——学生団体として活動はどういう感じで
行っているのですか？

宇宙プロジェクトが結成したのは2005年1月なので、今まで約2年間活動してきましたが、活動時間は基本的に大学の授業時間以外いつでもですね。だいたい講義が終わる午後4時から始まって、8時くらいまで主にやっています。でも、イベント前とかになると、泊りがけとなり徹夜で製作したりしています。

図1：ロケット打ち上げ準備

——昨年に行っている能代イベントについて背景も含めて教えてくださいませんか？

能代宇宙イベントとは、全国の大学生が秋田県能代市に集まって、カンサット・ローバー競技やロケットの打ち上げなどを行うイベントです。昨年に引き続き、今年の8月19日に第二回が開催されました。今年のイベントでは、昨年の東海大に続き私たち秋田大と筑波大の3大学が、それぞれハイブリッドロケットの打ち上げを行いました。また、カンサットやローバーの競技では、目標地点にどれだけ近づけるかというのを順位付けで競い、このときの成果で、後にアメリカで行われるARLISSへの出場権が審査されます。他にも、大型モデルロケットの打ち上げやそれによるカンサット放出、また一般参加者によるモデルロケット体験など、イベント内容は昨年に比べてさらに拡大してきました。来年度以降

も開催が予定されていますが、今年は運営のほとんどを秋田大のメンバーが行ったので、来年からは運営側を委託し、万全に競技に臨みたいと思っています。

——秋田というと能代イベントが有名ですが、その他にはどういうイベントへの参加を目指していますか？

小型衛星の開発に向けて製作しているカンサットでは、能代イベント後のARLISSへの参加を目指しています。そういった意味でも、結果を残さなくてはならない能代イベントは私たちのプロジェクトでは重要視していますね。ロケットについては、特に他のイベントへの参加は未定ですが、機会があれば全国さまざまな場所で打ち上げにいきたいと思います。イベントの有無に関わらず打ち上げることができるのもロケットの魅力の1つだと思うので、ロケットの研究を行っている他の大学との交流を図りながら一緒に打ち上げていきたいです。

——では、そういうプロジェクトをやっている醍醐味ってなんですか？

衛星やロケットを製作する上で得られる技術の習得も大きいですが、なによりミッションを終えた後の達成感を仲間達と分け合えることですね。そしてイベント後などに、いろんな大学の方とお話ができ、全国で同じような活動をしている学生と交流ができることも醍醐味です。他にも、プロジェクトマネジメントについて経験できることも、社会にでて役に立つスキルだと思います。

——プロジェクトとして何か今後やってみたいことがあれば教えてください。

現在進めているカンサットとロケットプロジェクトでは、それぞれの当初の目標である、カンサットのARLISS出場と小型人工衛星製作、ロケットでは高度100kmを目指して、クラスター型ハイブリッドエンジンの打ち上げを行ってみたいです。ただ、カンサットやロケットの活動は現在多くの大学が行っているので、私たちのプロジェクトでは、別の方向から宇宙へアプローチする活動を模索していき、つねに新しい分野に挑戦する意識を持っていきたいと思っています。

——別の方向からのアプローチとありますが、具体的に何か考えていることがあれば教えてくださいませんか？

活動をする決めていないわけではないですが、たとえば気球の研究をして、そこからカンサットを放出したり、ロケットを打ち上げたり、より高度が高い気球を開発して、大気データの採集や地上の撮影などができるのではないかと、などという考えもあります。他にも、ロケットにゆかりのある秋田の地域の人に、宇宙に対する感心を広めていくこともできればと思っています。まずその第一歩として、先ほども取り上げた能代イベントの充実が大きな成果になると思います。失敗は学生の特権だと思うので、いろんなことに挑戦し

たいですね。

——学生宇宙プロジェクトに入ったきっかけはなんですか？

すでに活動していた友人からの誘いでした。私が入った当時は、まだ学生宇宙プロジェクトという名がついておらず、カンサット製作やモデルロケット教室はやっていたそうですが組織として出来てなかったの、そういった意味では結成当時のメンバーということになりますね。

——そうすると宇宙技術プロジェクトを作り上げてきたという感じですね？

私は2代目の代表なので、1つ上の初代代表と先輩方が最初の枠組みを作ってくれた感じですね。メンバーの一員として、プロジェクト活動を支えてきました。

——高校生の時に描いていたビジョンと現在やっていることはやはり違いますか？

全く想像していませんでしたね（笑）大学に入学してからやりたいことが発見できたので。大学には高校時代には知らない世界がたくさんあるなと思いました。でもそれは決して受身的なままでは実現できず、自分から動いていかなければならないと学んだのが高校の時と今の自分との大きな違いですかね。

——熊谷さん自身の将来の夢について聞かせてもらえますか？

宇宙プロジェクトでは、先ほども言った大きな目標を達成したいと思っています。小型人工衛星の打ち上げ・運営と、高度100km到達可能なロケットの打ち上げです。そのためには、4年間という時間はかなり短いの、プロジェクトを存続させ後輩たちに技術と意思を引き継がせていくことが、夢達成への私の役目だと思います。卒業してからは、恐らく宇宙に関わる仕事に就くことは難しいとは思いますが、今私たちがこのような活動が出来ている恩を、そのときの学生に返すことができれば、それも宇宙に対する1つの貢献だと思います。秋田大学に関わらず、学生による宇宙開発が今後も続いていくことが私の希望です。

——大体の1日の生活について教えてもらえますか？

日によって空きコマもありますが、大学の講義が朝8時50分から午後4時で、それが終わるところから活動場所に集まり始めます。活動場所はパソコンなどが置いてある教官室と、製作時に利用する作業場、会議につかう学習支援室などです。そこでプロジェクト毎に設定してある予定表に沿った作業を行い始め、私に限っては代表の事務处理的な仕事をこなします。そして夜8時くらいになると、メンバーと一緒に夕飯を食べたり飲みに行ったりしています。

——それでは、現在の団体の満足度はどの程度ですか？

70%くらいですかね。宇宙プロジェクト自体、自主的な活動ですのでやりたくないことを指示するのは、私は好きではないのですが、やはりマネジメントにおいて役割を分担する以上、責任を持ってそれを果たしてほしいと思います。ただ、この活動を行うことでメンバーの個性が発揮できていることはうれしいですね。

——それでは最後に、秋田学生宇宙プロジェクトのアピールをお願いします！

私たち学生宇宙プロジェクトは、秋田大学生であれば誰でも入れる団体です。技術を身につけたい方、宇宙に興味がある方、マネジメントを経験したい方、他大学と交流したい方、新しい自分を発見したい方、随時参加を募集しています。秋田という宇宙にゆかりのある地で、一緒に宇宙を目指しましょう！



図 2：作業場の風景



図 3：ミーティング風景

お忙しいところインタビューに協力していただき、どうもありがとうございました！



インタビュアー：峰松 拓毅